

### 1. 評価結果概要表

**【評価実施概要】**

事業所番号	0471300350
法人名	医療法人財団 弘慈会
事業所名	グループホーム まいはあと
所在地 (電話番号)	栗原市若柳字福岡谷地畑浦88番地 (電話) 0228-35-3755
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年11月27日・28日

**【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)**

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 21人 非常勤 4人	常勤換算 21.7人

**(2) 建物概要**

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建て	1 階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

**(4) 利用者の概要( 10月 1日現在)**

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	16 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 97 歳		

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	石橋病院 かさま歯科医院
---------	--------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

町の中心からやや離れているが閑静な広い敷地に独立家屋三棟で運営されている。ホーム内も玄関や廊下をはじめ共有生活空間が十分なスペースが確保され、家庭的な雰囲気と明るく落ち着いた環境の中で皆が暮らしを楽しんでいる。隣には老人保健施設があり、その施設長がホームの施設長を兼務し医師なので毎週月曜日に入居者の様子を見て、職員に健康状態に関していろいろとアドバイスしている。このホームの最大の特長は同一法人が運営する近隣の病院、老人保健施設との強い連携で健康面における日々の安心の体制がとられている点である。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善点6項目のうち①地域とのつきあい②チームで作る入居者本位の介護計画③食事を楽しむことのできる支援④災害対策については改善された。地域密着型サービスとしての理念、運営に関する家族等意見の反映については積み残しになっているので引き続き検討していただきたい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を自分たちの行っているケアを見直す機会ととらえ、ユニット毎に職員からの意見をユニット長が集約し、更に管理者と詰めて完成させた。見出された課題は順次改善に取り組んでいきたいとしている。事例として設計時の仮称A、B、Cをそのままユニット名として使用していたが、親しみやすい名前に変えるよう考えたいとしている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度定期的開催されている。メンバーは入居者、入居者家族、市職員、地区区長、営農組合長、地区ボランティア、ホーム職員で構成され、ホームが現在取り組んでいる活動内容や外部評価について報告し、それに関して質問や要望が出るなど活発である。議事録もきちんとまとめられ公表されている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には面会時や運営推進会議の場を借りて、困っている事や意見等どんな些細な事でも遠慮なく相談してほしい事を伝えている。家族の意見を伝える一つの場として期待される家族会が発足したが、運営方針が未定のため本格的活動は来年度になる見込みである。尚、苦情処理の第三者委員選定については積み残しになっているので早急に対応していただきたい。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>情報収集を密にし、近隣の集会所での芋煮会や神社のお祭りに入居者と職員が一緒に参加するなど地域へ出て行くようにしている。中学生の福祉体験学習の受け入れや子供会のリサイクル活動にも定期的に協力している。また、食材の一部を近隣の営農組合から購入するなど交流は着実に進んでいる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生活できるよう支援するため事業所の理念の他に各ユニットでも理念を立て掲示するとともに、カンファレンス、ミーティングの際に「主役は入居者」であることを確認し支援している。ただし、理念の文言に地域密着型事業としての内容が希薄である。	○	昨年の外部評価において地域密着型としての理念の見直しが求められ、見直しに向けて検討を重ねいくつかの案が候補に上り最終案を決める段階に来ている。来年度までには決定し掲示したいとしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内(玄関やリビング)に掲示され共有されている。また、職員と管理者はカンファレンスやミーティングの時に理念について話し合い統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	情報収集を密にし、近隣の集会所での芋煮会や神社のお祭りに入居者と職員が一緒に参加している。また、中学生の体験学習の受け入れにも協力するなど交流は着実に進んでいる。一方、広報誌「まいはあと」の地区への回覧は実現していないが、今後情報発信することを期待したい		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を自分たちの行っているケアを見直す機会ととらえ、ユニット毎に職員からの意見をユニット長が集約し、更に管理者と詰めて完成させた。見出された課題は順次改善に取り組んでいきたいとしている。今回の評価を受けて、早速ユニット名A棟・B棟・D棟を親しみやすい名前に変えるよう考えたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取組んでいる活動や内容を報告し、出された意見や要望はサービスの向上に活かしている。地区自主防災会議や地区防災訓練への参加することを伝えている。外部評価の結果についても取り上げている。尚、地域のメンバーは男性のみなので女性の方にも加わるよう働きかけしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が運営推進会議のメンバーとして助言している。市が主催する研修会や講演会には積極的に参加している。また、市主催の健康講座に施設長が講師を務めることもある。地域包括支援センターとは入居者が自立と認定された時、対応してもらえるよう情報交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金の支払いは毎月ホームで直接払いになっており、その際に日々の暮らし、健康状態等を知らせている。金銭管理は出納帳にレシートを添付し家族の確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に困っている事、意見等どんな些細なことでも遠慮なく相談してほしい事を伝えている。家族会は発足したが、運営方針が未定のため本格的活動は来年度になる見込みである。尚、苦情処理の第三者委員については、積み残しになっているので早急に選定していただきたい。	○	苦情処理の第三者委員については、介護関係、行政側以外の方を対象に市の担当者及び地区の区長に推薦を依頼し、何人かの候補者がリストアップされた。これから選考し最終決定し委嘱したら、重要事項説明書等に明示していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することを基本としているが、異動や退職を見据えローテーションを組みユニット間交換研修を行い、入居者に全職員の顔を覚えてもらうようにしている。また異動や退職があった時は早めに知らせるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会には職員の経験や保有している資格に応じて内容を選び参加させている。終了後は報告書を提出させカンファレンス会議で発表させている。資格取得も奨励しており、定められた資格を取得すると正社員への登用、昇給等も用意されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟して協議会主催の研修会や交流会に参加している。交換研修を積極的に行うことにより他事業所との情報交換を通して職員の得るものは多い。実践者研修やケア作成者の研修に参加する際も積極的に同業者と交流するよう薦めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅を訪問し生活歴、性格、好みなどを本人や家族から聴取し、入居者同士の相性、職員との相性も考慮の上安心して過ごしてもらえるよう努めている。また、入居前には本人だけでなく家族にもホームに来てもらい、日常の様子を見学してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が同じ生活の場にいることを忘れず、互いに寄り添い協力しあいながら穏やかな生活ができるよう心がけている。入居者は人生の先輩であることを職員は共有しており、地域のしきたりや食事時の配膳の仕方または郷土食の作り方、農作業など多くのことを学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者の表情や行動から思いをくみ取ることに努めている。自分からあまり話さない方などは家族など周りからさまざまな情報を得るようにしている。常にその日の体調や様子を職員間で申し送り、入居者をよく理解するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや意見は日頃からよく聴くよう取り組んでいる。家族とは来所時に話し合いを持つようにしている。また、必要に応じてその都度電話でも行っている。介護計画は介護支援専門員と介護計画担当者と担当職員がアセスメントやモニタリングをして家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態と介護計画にずれが生じてないか常に確認し変化や要望があれば話し合い見直しをしている。安定している入居者も3ヵ月毎にアセスメントやモニタリングを行い見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは入居者と家族との触れ合いの場として居室や共有スペースを利用してもらっている。また、家族の宿泊についても積極的に支援しており、現に利用が増えている。協力医への通院には職員が同行し、医師から家族説明があるときは家族の同行も依頼している		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則としてかかりつけ医はホームの協力医療機関となっており、職員が付き添い支援している。尚、眼科、耳鼻咽喉科などは家族が同行し、従来からの医院を利用してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度や終末期の対応については、重度や看取りの指針に基づいて話し合い、家族の意向を尊重し、同一法人内の病院、老人保健施設に認知症の方を対象したベットを用意し対応している。今後「ホームで終末期を」という要望が強くなることも想定し情報収集及び勉強を続けたいとしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう声掛けの仕方や目立たずさりげない対応に配慮している。職員の言葉で気になったものは職員同士で注意し合っている。個人情報の含まれる書類は鍵付ロッカーに保管され、鍵はユニット長が携帯保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の体調によりゆっくり寝坊をしたい人には食事時間をずらしたり部屋食に変更したりしている。戸外への散歩や他ユニット訪問、また居室での読書、ぬり絵、俳句など楽しく過ごせるよう支援している。職員の手が足りない時は他ユニットから応援してもらっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立はあるが時に「今日何にしようか」と入居者と相談して変更することがあり。特に昼食に多い。人気メニューは郷土食のはっとや焼きおにぎりなどこれまでの生活に根ざした物が多い。食事の準備や後片付けも一緒に行い、感謝の言葉掛けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活歴や習慣や希望に合わせて入浴できるようにしている。また、一人ひとり体調を確認してから意思確認している。入浴をいやがる人にはじっくり話を聞く、時間を変えたり、職員を変えて入ってもらうよう対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からホーム内で一人ひとりの力を発揮してもらえるものを一緒に見つけ、お願いできそうな仕事を依頼している。一例として食事の準備、食器ふき、花の水やり、干し柿作りなど経験や知恵を発揮する場面を作るとともに必ず感謝の言葉を忘れないようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調やその日の天気を見ながら日常的な散歩やドライブなどに出かけている。馴染みの美容院や理髪店への外出や外食、近くの町での映画鑑賞などにも職員と出かけている。季節に応じお花見、観菊会などユニット毎に企画し出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外へ出かける様子が見られるときは、全ユニットに連絡しさりげなく見守るようにしている。日中は玄関の鍵を掛けず自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難訓練(内1回は夜間想定)を行っている。地区の自主防災会議に参加し地域の協力も得られるよう努めている。今後スプリンクラー、非常通報システムを順次導入する予定である。尚、非常口にスロープがあると避難がより迅速になると思われるので設置に期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の献立は同一法人の老人保健施設の管理栄養士が作成している。これを各人にあわせ量や塩分を調整するなどきめ細かに支援している。また、各人の食事や水分の摂取量のチェック、体重測定など健康維持に留意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は入居者と職員が協力して季節感のある物や行事の時のスナップや入居者の作品(短歌、俳句の色紙、折り紙、ぬり絵など)で飾り付けられている。冬には居間に加湿器が置かれ、暖房は廊下までされて快適である。尚、玄関入り口のスロープと玄関の式台に手すりがあると安全と思われるので設置に期待したい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はバリアフリーで備え付け備品は洋服入れ、洗面所、エアコンで、その他の家具はベット寝具を含め持ち込みである。立派な筆筒、リクライニングチェア、仏壇等々馴染みの物を持ち込み、また、家族の写真なども飾り居心地良さそうな部屋が多く見受けられた。		